

～ 仙台地域の復旧復興情報を発信! ～

いちご生産復興「わたりいちごスイーツ」新登場!

【地方振興部】



わたりいちごスイーツの
ポスター

東日本大震災で大きな被害を受けた東北一のいちご産地、亶理町・山元町のいちご生産復興を後押ししようと亶理町内の菓子店5店が「わたりいちごスイーツ」を新たに開発し、3月24日、亶理町中央公民館で発表会が行われました。

新作スイーツは、

- 「いちごのフリアン」(ジョアンナ洋菓子店)
- 「亶理のいちご」(作間屋支店)
- 「ひとつぶ」(リモージュ洋菓子店)
- 「いちごもち」(大槻菓子店)
- 「亶理いちごの100%濃縮ゼリー」(渡部菓子店)

以上5品で、亶理山元商工会が県の小規模事業経営支援事業費補助金を活用し、昨年12月から専門家を交えたワーキング会議を通じ、試作を繰り返して完成しました。

ペーストやフリーズドライに加工された本場の亶理町・山元町産いちごをふんだんに使用し、ポリフェノール豊富ないちごの種のプチプチとした食感やみずみずしい香りが活きた、甘さ控えめの上品なスイーツです。「わたりいちごスイーツ」は4月から各店舗で販売が開始されています。一人でも多くの方々に亶理町・山元町産いちごの魅力を知っていただき、復興へつながっていくことが期待されます。

宮城のノリ養殖再生へ向けて

【水産漁港部】



乾ノリの入札風景



出荷された乾ノリ

今漁期(※)の宮城県産のブランドノリ「みちのく寒流のり」の入札は、昨年11月22日の初入札会以来、4月30日までに全20回開催されました。生産量や生産金額は震災以前の約半数に留まっているものの、徐々に回復のきざしが見られました。

例年、入札を重ねるごとに単価が安くなっていきますが、今漁期は中盤以降盛り返して比較的高値で安定しており、漁期全体を通じた累計の単価で見ても、昨年より1割程度高くなっています。

震災で多くが失われたノリの加工施設も「宮城県水産業共同利用施設復旧整備事業」などの災害復旧事業により34施設が整備され、生産基盤も復旧してきました。今後は、生産体制を徐々に整え、単価に加え生産量の回復も期待したいと思います。

※ 乾ノリの生産時期は11月から4月まで

仙台市荒浜から復興への感謝を込めて～「復興感謝のつどい」開催～



「に」調理中

【農業振興部：仙台農業改良普及センター】

東日本大震災で甚大な津波被害を受けた仙台市若林区荒浜地区で、農業とコミュニティの再生を目指して活動している「荒浜プロジェクト」が3月16日に「復興感謝のつどい」を開催しました。このイベントは、震災から3年の節目にあたり、これまでの復興支援に対する感謝と荒浜の伝統・文化を地域の皆さんに伝えることを目的としたものです。当日は、荒浜地区で昔から食されてきた油揚げを醤油味で煮た、精進料理の「に」が振る舞われたほか、「に」の材料の油揚げや荒浜の農家が栽培した農産物の販売、再会した住民同士の写真撮影会などが行われました。

会場となったJA仙台七郷支店とたなばたけ高砂店には、かつての荒浜住民など約500人が訪れ、大変な賑わいとなりました。特に油揚げは、荒浜産大豆を原料に用い、地域で長年親しまれてきた「海野豆腐店」の味を再現したもので、販売開始後すぐに完売するほどの人気でした。

参加者からは「こうしたイベントでは思わぬ人と会えるためうれしい」「機会があればまた参加したい」という感想があったほか「今後もぜひ油揚げを購入したい」という意見も数多く寄せられました。

仙台農業改良普及センターは「荒浜プロジェクト」への参加を通じて、このような農業を核とした荒浜地域の方々の交流活動に加え、本年度から本格化する農業生産の復興に向けた支援を行っていきます。



油揚げは大好評

亘理町の津波被災地で山形県新規採用職員の現地研修が行われました

【農業農村整備部】

4月17日、山形県の平成26年度新規採用職員研修の現地研修が東日本大震災の津波被災地である亘理町の現場で行われました。本県での現地研修は今年で3回目となり、東日本大震災における震災時の状況や復興に向けた取り組みを肌で感じ、「住民視点」「現場主義」の意識、責任感、使命感の向上を図ることを目的としています。

現地では、津波で破堤(※)した荒浜漁港や浸水した農地などの現状を見て被災規模の大きさを実感するとともに、復興交付金事業により集約されたいちご団地や選果場、大区画化農地整備など復旧復興の実施状況を見学しました。

見学と併せて宮城県・亘理町の両職員から、震災時の状況や震災後の行政の取り組み、早期の復旧・復興を実現するために幾度も地元へ通い住民の合意形成を支援したことなど「住民視点」「現場主義」の重要性について実体験をもとに説明がありました。

研修に臨んだ山形県新規採用職員の皆さんは、震災時における行政の取り組みについて熱心に学ぶとともに、震災後の反省や教訓を通し行政に何が求められているのかということを共有することで、今後の職務への向き合い方を学ぶ機会になったものと思います。



復興の取り組みについての説明の様子

※ 河川の堤防や防波堤が洪水や津波などで壊れること

的確な経営計画策定に向けたセミナー開催

【農業振興部：亶理農業改良普及センター】

亶理農業改良普及センター(以下、亶理普及センター)は、被災地域の農業復興のために震災後新たに設立した生産組織などを対象に、2月20日、「亶理地域農業経営力向上講座」を開催しました。講座には管内4市町から農業生産法人の構成員など約20名が参加し、経営感覚を身につけたいという意欲の高さが伺えました。これに続き3月7日には名取市主催により「農業経営セミナー」が開催され、販売事業に取り組む女性農業者約20名を含む約50名の出席がありました。

両講座とも中小企業診断士の本田茂氏を講師に迎え、参加者は経営力の向上を図るための財務管理など組織運営の基礎知識と実践展開、さらに決算書分析や目標数値の求め方などについて学び、農業経営の基礎となる経営計画について経営実績の分析から課題などを明確にし、数字の把握の重要性を実感できたようでした。研修で習得した経営分析をもとに、26年度の計画に役立てていこうと意欲をみせていました。

亶理普及センターでは、今後も専門家を活用して個別相談会を開催するなど、きめ細やかな対応により地域農業を担う経営体の育成支援を続けていきます。



事業計画は経営目標から

緑の島の再生を願って ～蛭塚災害復旧事業～



左からヤマトオサガニ、コメツキガニ、スナガニ

【林業振興部】

はらこ飯で有名な亶理町荒浜は、漁業とおいしい海の幸の街です。そんな荒浜に住む人々の憩いの場である小島「蛭塚(ひるづか)」は、街に面する島の海に浮かんでいます。面積約4.5ha、標高約3m以下の平坦な土地を有するこの島は、かつてはクロマツに覆われて緑があふれ、マリンレインポーブリッジを介して荒浜地区との行き来も自由だったため、潮干狩りや自然観察の場として荒浜の人々に親しまれてきました。蛭塚のクロマツ林は潮害防備保安林であり、島周囲の浸食を防ぐため、治山事業による護岸などが設置されていました。しかし、東日本大震災の津波被害により施設もろとも激しく浸食され、緑も失われてしまいました。

林業振興部では現在、蛭塚を元の姿に戻すための災害復旧工事を実施しており、平成26年度中の完了を目指しています。蛭塚には湿地があり沿岸部では希少な天然のカニ・貝・ゴカイなどの底生生物(※)の生息地となってきたため、生物多様性に配慮した工法の検討も行いながら、津波により多くの家屋や事業所が失われてしまった荒浜地区の人々の憩いの場として、緑の島・蛭塚を再生できるよう、今後も工事を進めていきます。

※海・湖沼・河川などの水底に生活の場をもつ生物

「『伊達美味レシートラリー2014』」を開催しています

【地方振興部】

県内では、4月1日から6月30日まで「仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーン2014」として大型観光キャンペーンを開催しています。

地方振興部は、このキャンペーンに連動した企画として仙台地域14市町村と一体となって「『伊達美味』（だてうま）レシートラリー2014」を開催しています。



「『伊達美味』レシートラリー2014」
のチラシ

「伊達美味」とは、牛たん、笹かまぼこ、お寿司など「仙台地域で買える、味わえる美味(うま)いもの」のことで、このレシートラリーは「伊達美味」販売店など協賛店のレシートを2か所分集めて応募すると、抽選で「伊達美味」の詰め合わせが当たるという2度おいしい企画となっています。賞品は、10,000円相当の「伊達美味よくばりセット」を4本、3,000円相当の「伊達美味こだわりセット」を14本準備し、応募を7月17日まで地方振興部で受け付けています(※)。

皆さんにも、レシートラリーをきっかけとして豊かな風土を持つ仙台地域ならではの「伊達美味」を色々堪能し、仙台地域の旅を楽しんでいただきたいと思います。たくさんのご応募をお待ちしています。

※協賛店の情報や応募方法など詳しくは以下のホームページをご覧ください。

「伊達美味」レシートラリー2014のホームページURL

: <http://www.pref.miyagi.jp/site/event/dateumareceiptrally2014.html>

おすすめイベント・展示情報

■ テーマ展示「復興と創造のためにー宮城の復興発掘調査ー」 ■

日時：5月20日(火)～7月13日(日) 午前9時30分～午後5時(発券は午後4時30分まで)

場所：東北歴史博物館 テーマ展示室1

内容：特別展「日本発掘」の第4部として、宮城県内における東日本大震災の復興に伴う8遺跡の発掘調査の概要を展示、紹介します。

■ 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌平日)

■ 観覧料：常設展示料金でご覧いただけます。

一般400円(20名以上の団体は320円)、小学生・中学生・高校生は無料

問 東北歴史博物館情報サービス班 Tel: 022-368-0106

■ 第17回縄文いけばな展 ■

日時：5月30日(金)～6月1日(日) 午前9時～午後4時

場所：七ヶ浜町歴史資料館

内容：資料館が収蔵する縄文土器や民具に季節の草花をいける、ちょっと変わったいけばな展です。

問 七ヶ浜町歴史資料館 Tel: 022-365-5567

★ 読者の皆さまからのたくさんの明るい情報をお待ちしております！

お問い合わせ先)宮城県仙台地方振興事務所 地方振興部(担当:渡邊,山本)

(HP) <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sdsgsin-e/> (E-Mail) sdsinbk2@pref.miyagi.jp (TEL) 022-275-9140